

**第3回ロハスデザイン大賞2008
ヒト・モノ・コト3部門大賞決定のご案内**

有限責任中間法人ロハスクラブ（東京都中央区、代表理事：小黒一三）は、6月5日（世界環境デー）に、2008年度の第3回ロハスデザイン大賞／ヒト・モノ・コト3部門大賞を下記の通り発表いたしました。

第3回ロハスデザイン大賞は、一般個人審査員（登録数約13,000名）に対する公募によるエントリー候補に、ロハスクラブ理事メンバーの推薦によるエントリー候補を加えた308点から、最終審査候補としてロハスクラブ評議会が選定した155点を対象に一般投票を行いました。

投票は、去る5月15日（木）～18日（日）に新宿御苑にて開催した「第3回ロハスデザイン大賞2008・新宿御苑展」、また、5月23日（金）～25日（日）に開催した「第3回ロハスデザイン大賞2008・神戸展」における来場者投票（52,048票）、及び、ロハスクラブ一般個人審査員によるインターネット投票（39,168票）によって行われ、合算した総票数から、各部門上位3点、合計9点を大賞として認定するものです。

記

1：第3回ロハスデザイン大賞2008・応募／審査概要

応募エントリー総数：308点

最終審査候補数：155点

公募期間：2008年1月1日～2008年4月14日

投票期間：2008年2月25日～5月31日

※第3回ロハスデザイン大賞2008・新宿御苑展

開催期間：2008年5月15日～18日

開催場所：東京・新宿御苑

※第3回ロハスデザイン大賞2008・神戸展

開催期間：2008年5月23日～25日

開催場所：神戸・スペースシアター

投票数	：新宿御苑展・神戸展／来場者投票総数	52,048票
	ロハスクラブ・ホームページ／一般個人審査員投票総数	39,168票
	合計	91,216票

※投票は、1名につき各部門3票、合計9票までの投票により実施いたしました。新宿御苑展においては来場者に対して1名9票（各部門3票）の投票券を配布し、最終審査候補155点の展示に対する現地投票を募りました。

2：第3回ロハスデザイン大賞2008／3部門大賞受賞**「ヒト部門大賞」**

野口 健（アルピニスト）	4,070票
山口絵理子（マザーハウス代表）	2,149票
染谷武男（染谷商店会長）	1,621票

「モノ部門大賞」

竹マイ箸（ベストアメニティ）	2,870票
トヨタプラグインハイブリッド（トヨタ自動車）	2,177票
エネルギー・ユニバース・プロダクツ（三洋電機）	1,721票

「コト部門大賞」

ウォーターリフィル・水再充填システム（環境向学）	2,817票
ボルネオ環境保全運動（サラヤ）	1,850票
うんち教室（王子ネピア）	1,353票

【ヒト部門大賞】**野口 健 (アルピニスト)****ヒマラヤ地域の地球温暖化の問題に挑む**

「富士山から日本を変える」をスローガンに掲げ、日本の象徴である富士山の環境保全に努めながら、同時に全国の小・中学生を主な対象とした「野口健・環境学校」を開校するなど環境問題への取り組みを行っている。広い視野で地球のことや未来のことを考え、現在は地球温暖化による氷河の融解防止に向けた対策に力を入れており、G8北海道洞爺湖サミットに向けて政府に対し現場の状況を訴えるなど、活動を行っている。

**山口絵理子 (マザーハウス代表)****途上国から世界に通じるブランドを**

2006年、24歳でマザーハウスを設立。ジュートという麻の一種を使ったバッグをバングラデシュで生産し、日本で販売している。先進国が開発途上国に一方的に施すのではなく、ビジネスパートナーとして対等な関係を築き、「途上国から世界に通用する最高品質のブランドをつくる」という理念で活動。援助に頼らずバングラデシュの人たち、一人ひとりに自立する意識を持ってもらうことを目指している。

**染谷武男 (染谷商店会長)****使い終わった「てんぷら油」を燃料に**

東京・墨田区の廃食油処理業者『染谷商店』会長。植物性食油の廃油を精製した「VDF (ベジタブル・ディーゼル・フューエル)」。本来捨ててしまう使い終わった油が燃料となり、廃棄物が減る点は持続可能な地球を考える上で有効。また、トウモロコシや大豆の燃料と違い食料と競合しない点も優れている。またこの燃料は、大気汚染の原因となる硫黄酸化物はゼロ。呼吸器官障害の原因といわれる黒煙は軽油の半分以下。さらに同社はBDFであることだけに満足せず、年々強化される排ガス規制にも対応し、他社燃料の品質検査の代行サービスも行っている。



[モノ部門大賞]**竹マイ箸 (ベストアメニティ)****日本ならではの素材、竹を使ったマイ箸**

金箸を使う中国、ナイフやフォークを使う欧米人に比べ、日本人は美食家でありながら環境意識が低く、マイ箸を使っている人はいましたが、人に広めるという運動はなされていませんでした。今日、マイ箸の格好よさが一つの要因となり、マイ箸が日本人に広がりつつあります。また、竹は日本の山で過剰になっており、木に比べて用途の少ない竹を箸として利用することで山の環境にも良いという相乗効果をもたらします。よって環境への効果が木のものより期待される理由から、マイ箸の中でも竹のマイ箸を推薦いたします。

**トヨタ プラグインハイブリッド (トヨタ自動車)****EV 走行で CO2 排出量を削減**

携帯電話を充電するような感覚で、家庭用電源で充電でき、通勤や買い物など近距離走行であれば、ガソリンを消費せず、CO2 も排出しないで走行することができます。また、将来的には、自然エネルギーで発電した電力を活用し、CO2 を全く排出しないカーボンニュートラルな自動車会社を目指し、開発を進めています。

**エネループ・ユニバース・プロダクツ (三洋電機)****「繰り返し使う生活」が未来へ広がる**

昨今、あらゆる企業が「環境」を訴える中、“製品そのもの”が環境問題のソリューションに直結するようなものづくりをしている企業や商品はあまり見当たらない気がします。私たち人間が、「エネループ・ユニバース・プロダクツ」のようなモノを「使う」という行為自体が、環境問題への取り組みそのものに直結するのです。環境問題に真正面からぶつかって開発された当商品は、正に「ロハス」を具現化した「モノ」そのものだと言えるでしょう。



【コト部門大賞】

ウォーターリフィル=水 再充填システム (環境向学)

水の容器を使い捨てせず、マイボトルに『安心な水』を

きれいな水が、家や仕事場・お店など、どこでも入手できるので、水のフードマイレージは「0」。水を容器ごと買わなくてもいいので、容器の回収や運搬・リサイクルのためのエネルギーも「0」。車から出るCO₂・大気汚染物質も「0」。また、有害物質をほとんど「0」にできる逆浸透膜浄水装置を採用しているので、カラダに安心。利用者が簡単に、地球環境の保全と、資源の節約と、自身の健康に貢献できる仕組みとなっている。



ボルネオ環境保全活動 (サラヤ)

ボルネオの生物多様性を消費者と守る。

食用油や化粧品などの原料になるパーム油（アブラヤシ）は人の生活に必須。一方、その開発の犠牲となるボルネオの熱帯雨林は、地球の森林面積の約2割を占め、1万種以上の生物が存在する貴重な場所だ。そこで人と野生生物が共生できる環境と、生物多様性と企業の持続可能な関係を創るべく、現地政府認可の「ボルネオ保全トラスト」を支援。製品売上げは、森林回復の土地購入や、棲み処を追われたボルネオ象などの動物救助に使われる。



うんち教室 (王子ネピア)

うんちを通して、子供たちに健康教育

健康のバロメーター「うんち」。うんちを知ることは健康教育への第一歩。いいうんちをすることは、バランスの良い食事や適度な運動をすること。うんちがしなくなったら、我慢をしないことが大切。また、いいうんちは、するっと出るので、おしりを何度もトイレットペーパーで拭かなくても良いのです。「うんち」を通じて、子どもたち、大人たちに、健康や環境について考えてもらおうきっかけをつくっている。

